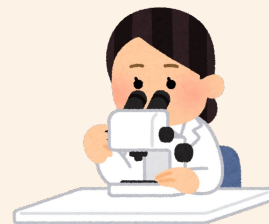


2025年度 SSH特設科目「SSII」

# 【第15回】 各自の研究活動

2025年10月21日（火）



# 専門的課題研究のイメージ

STEP1

研究テーマを決める

STEP2

リサーチクエスチョンを導く

STEP3

仮説を立てる

STEP4

適切な研究方法を選ぶ

中間目標

研究計画書を作成する

STEP5

調査・実験を実施する

STEP6

結果をまとめて考察し、結論を導く

STEP7

研究内容をまとめ、発表する

より高次のRQへ

高1  
中間発表

探究  
Day

生徒探究  
発表会

step1

振り返り

step7

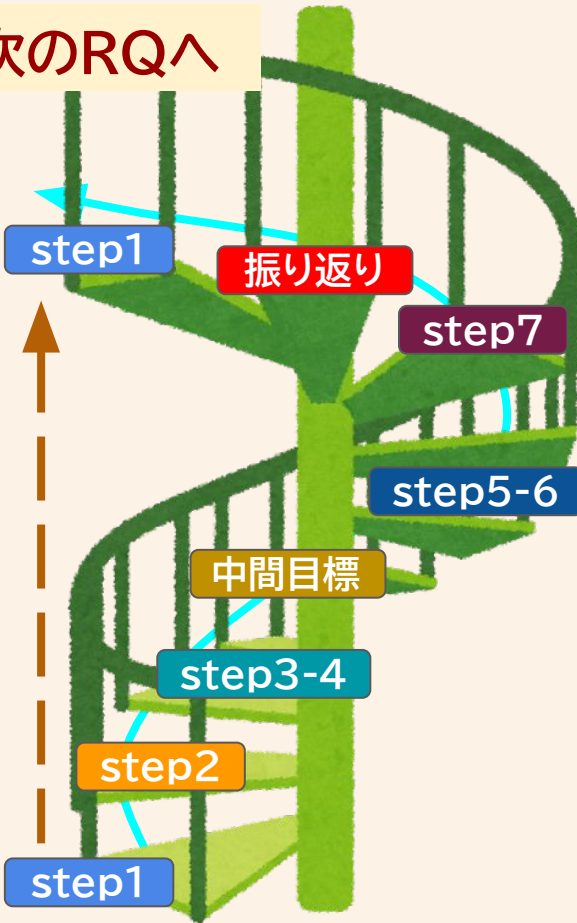
step5-6

中間目標

step3-4

step2

step1



# 「SS II」の評価

※発表の評価対象には発表資料(ポスター、スライド、研究要綱など)も含まれます。

|             |                                                                   |
|-------------|-------------------------------------------------------------------|
| 知識・技能       | 専門的課題研究計画書兼報告書<br>探究DAY専門的課題研究中間発表(11月)<br>専門的課題研究成果発表(2月)        |
| 思考力・判断力・表現力 | 専門的課題研究計画書兼報告書<br>探究DAY専門的課題研究中間発表(11月)<br>専門的課題研究成果発表(2月)        |
| 主体的に学習する態度  | 探究ノート(通年)<br>探究DAY専門的課題研究中間発表(11月)<br>専門的課題研究成果発表(2月)<br>学年末の振り返り |

# 11月8日(土) 探究Day

ポスター(A3×8枚)発表  
発表6分、質疑6分

高校2年生は全チーム発表  
実験・調査結果、考察まとめ、  
今後の展望も発表

他校から  
も発表者  
が来ます！

**探究Day** 芝浦工業大学柏  
中学高等学校



ともに学び、  
ともに深める。  
だから、  
探究はおもしろい。

**2025年11月8日(土)**  
小・中学生の部 9:30~12:00 高校生の部 13:30~15:50

内容  
ポスターセッション形式による探究成果発表会  
(探究の途中経過を発表することもあります)

発表対象者 小中学生・中学生・高校生  
観覧対象者 小中学生・中学生・高校生  
教育関係者・保護者

お問い合わせ  
芝浦工業大学柏中学高等学校  
〒277-0035 千葉県柏市勝院 700  
TEL:047(714)3700  
e-mail:conference@shibaura-it.ac.jp  
探究科主任 浅野真由

当日の詳細  
発表申込はこちら  
申込期限10/11(土)



当日の詳細  
観覧申込はこちら  
申込期限11/1(土)



## 4限まで通常の土曜時程

|       |   |       |                            |
|-------|---|-------|----------------------------|
| 13:30 | ～ | 13:50 | 開会式                        |
| 13:55 | ～ | 14:55 | ポスターセッション発表<br>(発表6分、質疑6分) |
| 15:00 | ～ | 15:15 | 閉会式                        |
| 15:20 | ～ | 15:50 | 交流会                        |
| 15:50 | ～ | 16:20 | 片付け                        |
| 16:30 | ～ | 16:40 | 帰りのHR後、下校                  |

# 探究Day(11/8)までのSSIIの時間

探究DayまでのSSⅡ あと2回(4時間)

研究活動と発表資料の準備・練習を計画的に進めていこう！

|       |                              |
|-------|------------------------------|
| 10/21 | 発表資料推敲 → 完成                  |
| 10/28 | 資料が完成したチームから発表練習開始(リハーサル)    |
| 11/1  | スライド完成×切(08:45時点)。各指導教員印刷開始。 |
| 11/5  | 15:45より指定の教室でスライドの貼り合わせ作業    |

# 貼り合わせ作業について

日時:11月5日(水)15:45

チームごとに教室を割り振っているので確認してください！

| チーム     | 教室   |
|---------|------|
| A・B・C   | 2年1組 |
| D・E・F   | 2年2組 |
| G・H・I・J | 2年3組 |

# スライド完成に向けた最終確認①

## ■ 表紙

- タイトルはその研究の内容を表しているか。
- 所属・名前が明記されているか。

## ■ 研究背景

- 一般的でない言葉や、意味や定義があいまいな言葉を説明しているか。
- 先行研究を踏まえて、データや文献に基づいて現在明らかになっていないことを整理できているか。

## ■ 研究の目的

- リサーチクエスチョンが明確に示されているか。
- 先行研究や事実に基づき、問題の本質を捉えた独創的な仮説を、検証可能な形で具体的に設定しているか。

# 探究Day 発表形式

課題研究メソッド  
p.132、142-144 ①

研究計画書兼報告書  
(1) 研究テーマ

どのような研究を行なったか、内容がわかり、かつ興味を引くタイトルをつけよう。  
空欄をつけて満足しても良い。

タイトル

生成AIを用いた短文記述採点方法の開発と運用

チーム番号: 777

全員の  
組番号 + 氏名

チーム番号  
メンバー

この3つを必ず入れる

課題研究メソッド  
p.142-144 ②

研究計画書兼報告書  
(2) 研究背景

研究背景

初めに発表を聞く人に内容を理解してもらうために、背景となる現状や先行研究・事例を説明する。  
発表で用いる言葉の意味や定義、現状を表すデータ、先行研究・事例を紹介する(データを引用した場合、引用元を示す)。  
これまでどのような取り組みや研究が行われ、何が分かっているのか、何がすでに解決されているのかなどを説明する。

課題研究メソッド  
p.142-144 ③

研究計画書兼報告書  
(3)①: リサーチエスチョン

研究の目的

研究に取り組んだリサーチエスチョンの内容とそれが生じた背景を示し、研究の目的を示す。  
リサーチエスチョンに対して、自分が立てた仮説とその根拠を示す。  
プレゼンテーションの導入部分として、「この研究は必要だ」、「面白そうだ」というように興味をもってもらえるようにまとめる。

課題研究メソッド  
p.62、142-144 ④

研究計画書兼報告書  
(3)②: リサーチエスチョンの意義

研究の意義

先行研究・事例をふまえ、自分が課題研究を行う前の状況を示す。  
パターン1: 社会的貢献) 現在の課題に関する社会課題、未だ取り組まれていないこと、現状を放置することで起こりうる状況  
パターン2: 学術的貢献) 先行研究から現在わかっていること、わかっていないこと  
自分の課題研究が、上記の課題にどのような影響を与えるかを示す。

10枚に収まる範囲で  
結果・考察および結論・展望の  
スライドの枚数を増やすことも可  
(★がついている項目は2枚まで増やしてよい)

## ポスター(A3×8枚)発表

|     |                       |
|-----|-----------------------|
| 1枚目 | 表紙                    |
| 2枚目 | 研究背景(先行研究・事例を用いた現状分析) |
| 3枚目 | 研究の目的(リサーチエスチョン)      |
| 4枚目 | 研究の意義(社会や学術への貢献)      |
| 5枚目 | 研究方法(調査・実験方法)         |
| 6枚目 | ★結果・考察                |
| 7枚目 | ★結論・展望(まとめと今後の展望)     |
| 8枚目 | 引用文献・参考文献             |

# スライド完成に向けた最終確認②

## ■ 研究の意義

自分の課題研究をおこなう前後で、社会あるいは学術にどのような変化・影響が出るかについて、多角的な根拠と共に説明できているか。

## ■ 研究方法

仮説を検証するために最も効果的な研究方法を複数の選択肢から比較検討して選択し、第三者が再現可能なレベルで具体的に説明できているか。

## ■ 研究の目的

調査結果を複数の視点から客観的に分析・解釈し、仮説と関連付けて論理的に考察できているか。

# スライド完成に向けた最終確認③

## ■ 結論・展望

この課題研究で明らかになったこと(リサーチクエスションの答えや新たな発見)、そして取り組んだ課題研究で生まれた、新たな「問い」や解決できなかったことについて書かれているか。

## ■ 引用文献・参考文献

引用の仕方は統一されているか。各スライドにも示されているか。

## ■ その他体裁

- 誤字脱字がないか。
- フォントの種類、大きさは適切なものに統一されているか。
- 聞き手が見やすい工夫がされているか。
- 図や表を用いている場合、不足している情報はないか。

# 発表・質疑応答を充実させるために…

## 一. 発表原稿を作成しよう

スライドと原稿を相互に見直して無駄をなくしましょう。本番は一言一句を読み上げるのではなく、トピックを頭に入れて原稿を見ずに発表できるようにします。

## 一. 想定問答集を作成しよう

スライドが固まったら質問と回答をあらかじめ用意しておきましょう。  
事前準備が自信につながります。

## 一. 聴衆を意識しよう

原稿を見ずに話せるようになったら、実際に人に聞いてもらって練習しましょう。  
聴衆の表情を見ながら内容をブラッシュアップすることが大切です。